

2022年度 第1回須坂市健康づくり推進協議会 会議録（要旨）

1 開催日時

2022年7月4日（月） 開会：午後1時30分 閉会：午後3時05分

2 会議の場所

須坂市保健センター3階 リハビリルーム

3 出席した者（12名）

鶴田 崇 委員	柳澤 真 委員	朝川伊知郎 委員	北原 満史 委員
田中 雅子 委員	菊池 健造 委員	樋口 義宏 委員	永田 繁江 委員
中村 壽勝 委員	寺田 克 委員	長瀬 有紀 委員	宮下 礼子 委員

4 欠席した者（3名）

下鳥 正博 委員 田崎 恒基 委員 太田 哲郎 委員

5 事務局出席職員（12名）

浅野 健康福祉部長
牧 健康づくり課長兼地域医療福祉ネットワーク推進室長
永井 健康づくり課新型コロナワイルスワクチン接種推進室長
荻原 高齢者福祉課長兼地域包括支援センター所長
健康づくり課：滝澤 保健予防係長 仁科 保健予防係担当係長 津山 健康支援係長
鈴木 母子支援係長 宮崎 国保年金係長 堀内 福祉医療係長
富沢 地域医療福祉ネットワーク推進係長
高齢者福祉課：中村 地域包括支援センター介護予防係長

6 傍聴者 1名

7 配布資料

- (1) 保健予防事業及び介護予防事業の報告（2021年度）及び計画（2022年度）について
- (2) 福祉医療費給付金制度について
- (3) 須坂市健康づくり計画の計画期間変更について
- (4) 須坂市健康意識に関するアンケート調査の結果について
- (5) 第4期須坂市自殺予防対策計画の策定について
- (6) その他

8 部長及び協議会長あいさつ

9 改選委員の紹介（事務局から3名を紹介）

北原 満史 委員 田中 雅子 委員 樋口 義宏 委員

10 協議事項

(1) 副会長の選出

今年度は任期2年目となるため、昨年度、本条例第5条の規定により委員の互選にて選出された前副会長（須坂市区長会副会長）の残りの任期について、次のとおり選出された。

副会長 北原 満史 委員（須坂市区長会副会長）

(2) 保健予防事業及び介護予防事業の報告（2021年度）について 及び

(3) 保健予防事業及び介護予防事業の計画（2022年度）について
資料に基づき事務局から説明を行った。

これに対し、委員から次のような意見・質問が出された。（別紙議事録参照）

※事業報告及び事業計画について、原案どおり承認される。

(4) 福祉医療費給付制度について

資料に基づき事務局から説明を行った。

これに対し、委員から意見・質問は無かった。

(5) 須坂市健康づくり計画等の策定について

① 須坂市健康づくり計画の計画期間変更について

② 須坂市健康意識に関するアンケート調査の結果について
資料に基づき事務局から説明を行った。

これに対し、委員から次のような意見・質問が出された。（別紙議事録参照）

③ 第4期須坂市自殺予防対策計画の策定について

資料に基づき事務局から説明を行った。

これに対し、委員から次のような意見・質問が出された。（別紙議事録参照）

(6) その他

事務局・委員からの連絡事項等は無かった。

11 御礼（部長あいさつ）

12 閉会

議事録（質疑）

○協議事項（2）（3）保健予防事業及び介護予防事業の報告（2021年度）及び計画（2022年度）について

（事務局）該当事業について説明

（委員）介護について、コロナ禍で本当に必要な方や希望する方が参加できるようどんな工夫をされたのか。

（事務局）コロナ禍で中止にした教室もありました。一般介護予防教室については、比較的元気な高齢者対象のため、色々な所へ出かけられる機会が多くあり、感染リスクが高いことから中止としたことが多くありました。事業対象者や要支援の方は外出の機会も少ないので、できるだけ中止することなく、感染対策をしながら教室開催を継続しました。ただ、そういう方の中には、集団の場には行きたくないという方もいらっしゃるため、自主トレメニューを提供し、自宅にて取り組めるよう工夫しました。

（委員）人口減（5万人から約千人も減少したこと）については何か原因があるのか。外国人の転入出が多かったということか。

（事務局）申し訳ございませんが、把握しておりません。

（委員）新型コロナウイルスワクチン接種について、専門医の講演を聴いたが、（接種率が）全人口の50%を超えると感染が抑えられるとのことだった。須坂市の接種率は高く、努力されており、頑張っているため感染を抑えられているのだと感じている。

（事務局）（医師会の）先生方のご協力に感謝申し上げます。

（委員）ワクチンを2回接種すると、感染も後遺症も半減することなので、今までためらっていた方も接種できるように、積極的に進めていただきたいと思う。

○協議事項（4）福祉医療費給付制度について

（事務局）乳幼児等の制度拡大について説明

（委員）福祉医療費給付制度を18歳まで拡大するのであれば、予算の都合もあるかと思うが、インフルエンザ予防接種を18歳まで行う事業の継続はないのか。

（事務局）2020年度に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止とインフルエンザの重症化予防との観点から時限的な事業として行っておりましたが、2021年度以降、継続実施はしておりませんのでご理解をお願いいたします。

○協議事項（5）須坂市健康づくり計画等の策定について

① 須坂市健康づくり計画の計画期間変更について

② 須坂市健康意識に関するアンケート調査の結果について

（事務局）計画期間の変更、アンケート調査結果の概要について説明

（委員）アンケート11ページの運動などの体を動かす機会が減った方が36.5%のことだが、年代別の内訳が分かれば教えて欲しい。

（事務局）問9-2の運動などの体を動かす機会が減ったと答えた方の全体を100%とした場合、10代は33.3%、20代は31.6%、30代は37.5%、40代は41.1%、50代は31.7%、60

代は60歳から64歳までが33.3%、65歳から69歳までが41.7%となっております。

(委員)コロナ禍では、運動の機会が減るといったことも起こると言われているが、具体的な解決策は講じているか。

(事務局)地域や日常生活の中で運動習慣を定着できないかということで、ウォーキングマップを作成しております。ウォーキングコースを活用して、自宅の周りなどを歩いていただきたいとの思いで取組を行っている、マップはホームページでも閲覧できるほか、保健センターや地域公民館でも設置をしている。生涯学習推進センターとも連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

(委員)これだけ詳細に調査してもらったので、結果を市民に公表し、対策をしていただきたい。また、身近な人で自死した方の割合が4人に1人とのことに驚いているが、全国的にもこのくらいの数値なのか。

(事務局)4人に1人という割合は、全国的にも同じと言われております。1人が亡くなることで色々な方への影響力が大きいと言われており、須坂市でも同程度の数値が今回出ているため、自殺予防対策にも力を入れていきたいと考えております。

(委員)A委員にお聴きしたいが、18歳から69歳で自分の歯が24本以上の割合が7割のことだが、この程度のものなのか。

(A委員)現在40代後半の方は、むし歯の洪水と言われた年代。小・中学生、高校生の頃にむし歯になった方が、今大人になっている。昨年度から、節目年齢の成人歯周病検診が行われているがとても良いこと。妊婦歯科健診はもう少し受診率が高いかと思ったが20%だった。受診率向上に向け啓発をお願いしたい。

(委員)今年度は受診率がもう少し上がるだろうとのことなので期待したい。

(委員)問5-1の運動に取り組む頻度の割合が減ったとのことだが、平成24年度と令和3年度では調査時期は同じなのか。令和3年度の調査時期は1月から2月なので、冬だと体を動かす人は少なくなるかと思う。また、冬に運動するための対策などが大事になるかと思うがいかがか。

(事務局)平成24年度調査は、7月から8月の夏場でした。今回の調査は冬場だったため、時期も影響しているかと思われます。冬場にできる運動として、日常生活の中で体を動かすことができる習慣づくり等も含めて検討していくなければならないと考えております。

(委員)次回調査は、同じ時期・条件で行うことが望ましいかと思う。

③ 第4期須坂市自殺予防対策計画の策定について

(事務局)計画策定について説明

(委員)職業別の自殺者割合のうち、被雇用については、正規と非正規では分けて統計をされているか。

(事務局)そこまでの分析はできておらず、正規・非正規の別は把握しておりません。

(委員)職場におけるメンタルヘルスはとても大事であるが、大きな事業者は産業保健師もおりしっかりチェック・取組されているかと思うが、中小の事業所、かなり小さな事業所は難しい部分もあるので、そういう事業所への取組支援をよろしくお願いしたい。

(事務局) そういう取組もしてまいりたいと思います。また、須坂市では働きざかりの健康づくり研究会の皆様もいらっしゃり、勉強させていただいております。働いている方々への支援の方法や啓発についても検討してまいります。

○協議事項（6）その他について

事務局・委員からの連絡事項・意見等は無かった。

(会長) それではこれで協議事項を終了します。

以上